

河口堰の開門調査要請

よみがえれ長良川実行委 県側は応じず

長良川の環境改善を目指す県内外の29の市民団体で構成する「よみがえれ長良川実行委員会」は27日、県



鈴木宏一郎河川課長(左)に要請書を渡す粕谷志郎共同代表=県議会棟

に長良川河口堰の開門調査の実施などを求める5項目の要請を行った。粕谷志郎共同代表ら9人

が県議会棟を訪れ、鈴木宏一郎河川課長に要請書を手渡し、意見交換した。実行委は、河川環境の改善や漁業への効果を確かめるべきだとして、農閑期に開門調査を実施するよう求めたが、県側は農地への塩害リスクがあるなどとして応じなかった。また、美濃市横越の遊水地計画の見直しや、郡上市の内ヶ谷ダム事業の再検討、木曾川水系連絡導水路事業の中止などを求めたが、県側はいずれも応じなかった。(舌間隆博)

長良川河口堰開門調査 国への働き掛けを要請 県に市民団体

長良川の環境改善を求め二十九の市民団体でつく

長良川の環境改善求める

岐阜 市民団体など県に要望書

長良川河口堰(せき)の開門と長良川の環境改善を求める29の市民団体・グループでつくる「よみがえれ長良川実行委員会」は27日、岐阜県庁を訪れ、古田肇県知事に対し、「長良川の環境改善を求める要望書」を提出しました。県は県土整備部河川課の六人が応対。実行委は粕谷志郎共同代表

と事務局の武藤仁氏ら9人が参加しました。要望書は、河口堰が開鎖されて25年、工業用水の新規利水には一滴も使われず、水道も当初計画の15%しか使われておらず、利水施設として無駄であったことは明らかだと指摘。①河口堰の開門調査に向け検討を行う②徳山ダム導水路事業の即時中止③美濃市横越



説明する事務局の武藤氏と粕谷氏ら 27日、岐阜県庁

の「遊水地」計画は強行しないなど項目を求めています。開門調査について、県が「農業塩害」の危険をあげていることに対し、粕谷氏は、県の水資源ホームページに掲載された塩水遡上(そじょう)シミュレ

ーションの誤りを指摘し、塩水が農地の取水口まで上がらないことを説明。重ねて開門調査に向けた検討に踏み出すよう求めました。「遊水地」計画については、県が洪水を防ぐために必要な計画だと主張。参加者は「六つの遊水地計画のうち、なぜ横越地域だけ川の中に造るのか。地元住民は過去に道塚(左岸)堤防の決壊を何度も経験しており、造って大丈夫という説明がない。今一度立ち止まって市民の不安や懸念に応えてほしい」と強く要求しました。



担当者に要請書を手渡す粕谷共同代表(左)=県庁で